

## 緑岡中学校区 学校運営協議会制度に関する研究

緑岡中学校 緑岡小学校

### 研究主題 地域と学校を結ぶコミュニティ・スクールの導入 ～地域と共にある学校づくりを目指して～

#### 1 主題設定の理由

子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は、複雑化・多様化しており、教育改革、地方創成等の動向からも、学校がなすべき課題が山積している。そのような中、子どもたちがすくすくと育つことのできる環境づくりの視点のもと、学校と地域が共に力を合わせて取り組めることをより具体的な問題について協議し、意思決定を重ねていくことにより、緑岡地区の資源を最大限に生かした特色のある学校づくりを目指し、本主題を設定した。

#### 2 研究のねらい

- (1) 緑岡地区の子どもたちを地域全体で育む「コミュニティ・スクール」の在り方
- (2) 子どもたちの未来のために、共に悩み、共に考える場の設定

#### 3 具体的な取組内容

別紙議事録参照

#### 4 成果（進捗状況と今後の課題）

##### (1) 進捗状況

###### ① 忌憚のない話し合い

第1回目から学校、保護者、地域の垣根を取り払い、各々の立場で意見交換ができています。特にこの緑岡地区の子どもたちの健全育成や地域の発展を考え、「何を変え、何を変えないのか」といった地域創成を第一に考えた熟議となってきている。

###### ② 児童生徒の安全確保

児童生徒の熱中症対策として、ミストシャワーを設置した。これは、学校運営協議会委員から課題が提示され、委員を通じて小中PTA組織の「きずなの会」に依頼し、予算を計上していただいで実現することができた。このミストシャワーは、夏季休業中の部活動や2学期の体育祭の練習や当日の暑さ対策として、大いに活用された。保護者からも大変好評であった。

##### (2) 今後の課題

様々な意見をいただく中で、既存組織や既存概念にとらわれない取組が肝要である。具体化できる活動を着実に取り組んでいき、実現できるものにはすぐにでも着手していき、子どもたちの健全育成・地域創成に努めていきたい。

## 令和元年度 第1回緑岡地区学校運営協議会 記録

1 日時 令和元年5月28日(火) 18:30~20:15

2 出席者

鈴木忠信 海野雅文 吉田葉子 小林良導 吉川国之 松尾光臣 木下智和 豊田一雄  
(小学校)添田智 海老名聡 高村啓子 (中学校)木下美直 石川洋 杉山健二

3 次第

(1)委員の委嘱

(2)自己紹介

(3)趣旨説明 … 木下美直

緑岡地区の子どもたちを地域全体で育む「コミュニティ・スクール」  
夢を語り合い、子どもの未来のために、どうするかをフランクに話し合う  
一緒に悩み、一緒に考える場 … 熟議【衆思を集めて群力を宣ぶ】

(4)協議

①会長・副会長選出

会長 → 学校から推薦 鈴木忠信 様 … 承認  
副会長 → 会長から推薦 小林良導 様 … 承認

②学校経営案の承認

小中とも 「グランドデザイン」 学校長が説明  
「校務分掌(組織図)」 教頭が説明  
「年間行事予定」 教務主任が説明 … 承認

③活動計画案の説明(石川洋)

ア 絶対に出席ではない

イ 卒業式・入学式・運動会・体育祭 等の際に自由に見学していただきたい  
→ 案内状等は出さなくていい → SNS等での連絡でOK  
(学校側の負担減・出張先でもわかる)

④その他 … 自由に発言する

- ・ この協議会で緑岡地区の活性化を図りたい  
「子ども会の活性化」  
「不動産店から推薦されるほどの緑岡地区→期待を裏切りたくない」  
「子ども会・育成会と一緒に活動しませんかとの呼びかけ」
- ・ 安心・安全は当たり前  
子どもたちが緑岡地区を「楽しみ」→「好き」になり  
→ 「自慢」する子どもたちを育てたい  
そのために、緑岡の資源を活かす組織体制づくり等を考えること  
(目的は「子どもたちに楽しんでもらうために」)
- ・ 保護者だけでなく地域で何かできないかの話し合いの場にしよう
- ・ 既存組織や既存概念にとらわれないものにしよう
- ・ 先生方が輝かないと子どもたちも輝けない
- ・ 先頭に立って引っ張っていく地区の力のあるリーダーとその他の住民との意識格差  
が大きい → どのように引き上げるかの方策
- ・ 緑岡地区の強みと弱点
- ・ SNSを大いに活用しよう
- ・ PTAが子どもたちに関わりすぎているのではないか?
- ・ 「何を変えるのか、何を変えないのか」を明確にすること  
→ 子どもたちに、どのような価値を与えたいのか

(5)その他

① 次に何を話し合うのか、あるいは課題を見付けるのかを明確にしたい

② 事前に協議事項を連絡いただければ、当日意見交換がしやすい。また、参加できなくても、SNS等で意見を言えるのではないかと

次回は、6月27日(木) 小学校で開催 → SNSで通知する  
(もしくは携帯電話)

## 令和元年度 第2回緑岡地区学校運営協議会 記録

1 日時 令和元年6月27日(木) 13:40~15:30

2 出席者

鈴木忠信 海野雅文 小林良導 吉川国之 松尾光臣 木下智和  
(小学校) 添田智 高村啓子 (中学校) 木下美直 石川洋 杉山健二

3 内容

(1) 各小中学校から現況報告 . . . 各学校だよりから

(2) 授業参観 各学年1クラス参観 別紙資料参照

(3) 協議

① 授業参観からの感想

- ・ 多くの保護者の参観状況にびっくりした。関心の高さがうかがえた。
- ・ 子どもたちが活気がありとても元気である。
- ・ 保護者同伴の授業について
- ・ 特別支援学級について
- ・ 理科教材について → 低価のものは個人購入で使用している
- ・ 最近の保護者は、過保護傾向にあるのでは . . . 。

② 将来を見据えた教育とは

- ・ 親の「しつけ」について、意識が低いのでは。  
→ あいさつや箸の持ち方など学校任せの親もいる
- ・ 最近のこどもは、「言われたことしかやらない」のではないか。自主性に乏しい。
- ・ 子どもの将来のためにできることは . . . 。

③ 最近の教育について

- ・ 親の教育に対しての情報量が豊富 → SNS共有, クレーム
- ・ 親の教育に対する価値観の多様化, 二極化している
- ・ 最近の先生は、個性がなくなっているのでは . . . 。（マニュアル化）  
→ 持ち味を生かしてのびのび指導できない
- ・ P T A本部等が教職員をバックアップする体制づくりを
- ・ 緑岡地区として、教育をサポートする地域性を大切にしたい

④ 今後の取り組み

- ・ 学校は「社会の縮図」であり、「地域性」（特色づくり）が大切  
→ 緑岡地区は、「マンパワー（地域力）」を生かしたい。  
→ 親を育て、地域と共に育みたい。  
→ 子どもが楽しむ = 親も楽しむ・教師も楽しむ  
→ 児童生徒・親の名前と顔を覚えたい . . . お互いに親しみがわく

⑤ 熱中症対策として

- ミストホースの設置の検討を . . . (避暑コーナーとして)  
関係者や他校の様子から情報を収集する

(4) その他

① 本委員が集う懇親会を実施したい。

- ・ できれば週末 今後調整する

② 大和ハウス工業株式会社（浅子 猛営業課長）から「緑岡地区に対して、ボランティア等を協力したい」との旨の申し出があったとのこと（鈴木委員長より）

次回は、12月6日(金) 中学校で開催予定

## 令和元年度 第3回緑岡地区学校運営協議会 記録

1 日時 令和元年12月6日(金) 14:30~17:15

2 出席者

鈴木忠信 海野雅文 吉川国之 松尾光臣 木下智和  
(小学校)添田智 海老名聡 高村啓子 (中学校)木下美直 石川洋 杉山健二  
(水戸市総合教育研究所) 蓮沼邦彦

3 内容

(1) 各小中学校から現況報告

小中学校職員「年休取得状況」「時間外勤務状況」「担当授業時数」「時間割」を提示して、  
緑岡小中学校教員の勤務の実態を報告した。

(2) 授業参観 全クラス参観

(3) 協議

① 授業参観からの感想

- 生徒が言いたいことが言える雰囲気があった。
- 今の子どもたちは恵まれている。詰め込み教育だけの時代から、かなりさまざまな角度からの教育がなされている。
- 先生方がかなり熱心で、生徒はまじめに聴いている。
- 道徳の授業→「自由」を論議すると常識が分かる、おもしろい授業だった。
- ICTを使って「図形」の移動などが視覚的に捉えられ、便利に使える。
- 読解力の低下→「アナログ」の読み書きを大切にしなければならないと考える。
- インフルエンザ対策→個人で「濡れタオル」をやってはどうか。
- かゆいところに手が届いてしまう教育  
⇒ 手が届かないところを自分でどうするかのを育てたい
- 英会話中心→文法も大切にしてほしい。

② 教職員の勤務実態から

- 教員の労働環境は劣悪である。  
→ 給与の問題ではない。教員の数が不足している。
- 「奉仕の心」「教員魂」は大切だがアウトプットの力が必要である。  
→ 「看護師」の仕事と似ている
- 日本のサービス業の現況と同じで「捨てるもの」「やらなくていいもの」は何かを洗い出さないといけない。見合ったサービスを持続的にやるのが大切。ただし「やりたい」という情熱は消さない。  
→ 「学校の先生になりたい」という人が増えない。  
(例①) 登下校の際の送迎は教員ではなくて保護者がやってもいいのではないかな？  
→ 警備員さんに依頼できないか  
(例②) 採点業務については、外部に依頼できないか？  
→ もっと先生は「教える」ことに専念するべきであろう  
(例③) P T Aの存在意義をもう一度見直してみよう

業務の棚卸をするべきだ ⇒ 「何」に「何分」かかっているのか数値化してみる。

※「効率的にやる」ということは「生産性が向上する」ということにつながる。

【このままだと学校は「肥大化」していくことになる】

今、自分がやっていることを疑ってみる。

【「緊急性」と「重要性」で考える】

教師は「仕事依存症」になっていないか。

③ 緑岡地区の特色を生かす取り組みについて

- 小学校低学年の絵を自分の会社のトラックにラッピングしたい。  
(交通事故を減らす効果あり)
- 会社の建物にも絵を描いてくれないか。

緑岡地区で学校を育てよう